

しげみつ 佐々木茂光 県政報告

平成25年9月11日 発行



あの日を忘れない… 地域再生へ全力で走る

ごあいさつ

新秋の気配がいよいよ深まり朝夕の風がめっきり涼しくなってきました。

皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

震災復興事業も徐々に今後の見通しが示されてきておりますが、そのことに対して落胆の声がどこからともなく聞こえてきます。

高台移転、最も遅くなる方で平成30年とか。

その後どうなるのかという疑問（嘆き）の声も多く寄せられます。

今年は復興加速年と位置づけ昨年度並みに予算編成され、実施されてきました。

しかし、いまだ沿岸部は震災の風化、内陸部は原発放射能汚染の風評被害のという風が吹いています。

それらの声を受け、先の議会では復興後の姿を知事はどう捉えているか、いかなる考えで県政の舵を切っていくとしているのかを知事に問いました。

被災地の代表として、そして地域の代表として、力をゆるめることなく、気を抜くことなく、陸前高田市、住田町と緊密な連携を図り県政課題と地域課題に取り組んで参ります。

今後ともご指導ご協力をお願い申し上げます。



県議会の所属委員会等

- 農林水産常任委員会
- 東日本大震災津波復興特別委員会
- 新産業創出調査特別委員会
- 岩手県南・宮城県北議員連盟
- 岩手県森林・林業政策研究会
- 水産振興議員連盟所属
- 農業・農村整備推進議員連盟
- 無所属から自由民主クラブに所属

あなたの声を県政に！

県政報告会をかねた住民意見交換会を始めました。

10月5日(土)長洞、広田小学校、広田水産グランド仮設集会所

10月6日(日)滝の里、竹駒小学校、細根沢仮設集会所

10月19日(土)西風道、米崎中学、米崎小学校仮設集会所

10月20日(日)堂の沢、横田小学校、横田中学校仮設集会所

11月2日(土)下矢作小学校、打越仮設集会所

11月3日(日)住田方面

佐々木茂光 熱き思いを胸に 6月定例会一般質問に立つ！ 「知事に問う！ いつやるんですか」



＜平成25年6月定例会7月3日、当選後2回目の一般質問を行いました。主なその内容を掲載＞

災害廃棄物処理の進捗状況について

問 来年3月までの全量処理は可能か？現時点での見通しはどうか。

答 災害廃棄物の処理先はおおむね確保が完了している。処理困難物の一部の処理について引き続き調整を進めている。県内処理を迅速化し広域処理も有効に活用することで、年度内の全量処理に向けて全力をあげて取り組む。

問 「堆積土処理の進捗状況」と「資材性能の評価の進み具合」また活用先の課題は解決されたのか具体的に。

答 平成26年3月までの処理にめどがたったものとする。資材性能の評価については、300㎡ごとに検査を実施し、品質判定書を発行。本年5月末までに検査を完了した資材はすべて復興事業等で活用されている。活用先の事業等の調整についてはおおむねめどがたっているが、事業の進み方によっては活用が年度をまたがる可能性があることから引き続き調整に努め、国に対しても保管費用などの財政的支援を求めているところである。

災害公営住宅について

問 県が整備する災害公営住宅完成予定は、「平成26年秋頃」あるいは「平成26年度末」とある。発災から最長で4年も待たせることになる。被災地、被災地住民の現状をどのようにとらえ、今後取り組むのか。

答 平成26年末までに完成させることを目標に鋭意取り組んでいる。設計施工一括選定方式や敷地提案型買取方式を活用するなど全力をあげて取り組む。

震災復興特別交付税について

問 国が増額交付する震災復興特別交付税総額215億円の交付を受けた市町村の活用検討状況は。

答 住宅建築に関する利子補給、宅地のかさ上げ経費、引越し経費が支援の対象経費として積算されており、この趣旨を踏まえ、住宅再建支援の充実を図るよう助言したところである。大船渡市、田野畑村などで各種支援事業がすでに実施されている。市町村担当者相互の情報共有、意見交換の場を設け、市町村独自の住宅再建支援策の充実を図る。

被災住民の心のケア対策について

問 被災者のおかれた個別、具体的な事情を十分に踏まえた、きめ細やかな対応が求められている。具体的な心のケア対策は。

答 心のケア対策は中長期的な継続した対応が必要であり、地域の状況の変化により新たに生じたニーズにきめ細かく対応できるよう関係機関と連携し被災者に寄り添った取り組みを推進する。

第1次産業の振興策について

問 今までの第1次産業の施策から将来を見据え踏み出すような、大きなビジョンをお示し願いたい。

答 (知事答弁)
意欲と能力を持った経営体の育成や、生産性市場性の高い産地の形成・農林水産物の高付加価値化や販路拡大などに取り組み、食と緑の創造県岩手の実現を目指すこととしています。

人口減少社会に対するビジョンについて

問 国と同じ流れで物ごとを考えるのではなく、「岩手県の将来は、こうなんだ」というような知事の考えはないのか。

答 (知事答弁)
三陸創造プロジェクトなどの取組に加え、現在県総合計画審議会に人口と豊かさの二つの検討部会を設置し本年度末の政策提言に向けて検討いただいているところである。

高齢化社会について

問 少子化と同様、黙っていても高齢化は進む。元気な高齢化社会づくりのための具体的な取り組み、方策は。

答 高齢者団体が行う地域活動などへの助成、高齢者の社会貢献活動にかかる相談窓口の設置などを通じた高齢者団体の自主的な活動への支援などを行っている。介護支援ボランティアの普及など、元気な高齢者が社会参加を通じて地域で高齢者をささえる担い手となるような取り組みを支援していく。

地域医療について

問 震災前の高田病院は医療と福祉の連携など全国に誇れる病院であった。再建にあたっては、こうした評価を踏まえ、さらなる施設の充実により、住田町も含めた気仙広域圏の地域医療の向上を図っていくべきと考えるが。

答 高田病院の再建にあたっては引き続き一定程度の病床を確保する必要があると考えている。気仙保険医療圏における医療供給体制の中で良質な医療を提供できるよう、地域の皆様方とお話もお伺いしながら高田病院の再建に向けた取り組みを進めていく。

気仙沿岸への道路整備について

問 東北縦貫自動車道から気仙沿岸への道路整備、また滝観洞ICへのアクセス道路である県道釜石住田線のさらなる整備を図るべきと考えるが。

答 気仙地域と内陸を結ぶ国道等については復興支援道路と位置づけており、交通隘路ヶ所の解消や防災対策、橋梁耐震化等重点的に進めており復興道路と一体となって機能することにより災害に強く信頼性の高い道路ネットワークの構築を図る。また県道釜石住田線の整備の、未改良区間については県全体の道路整備計画のなかで交通量の推移などを見極めながら検討していく。

JR大船渡線復旧に向けた取り組みについて

問 鉄道の流出被害が比較的少なかった気仙沼～陸前矢作間については、復興に向けた第一歩として、先行して運行すべきと考えるが。

答 JR東日本に強く要請してきた。これに対してJR東日本では、当該区間の利用者が少ないことから部分的な運行再開は考えておらず、仮に運行再開する場合には、大船渡線全線での再開の考えを示しており、現時点では、運行再開のめどは立っていない。県としても沿線の市の意向を最大限尊重し、今後も沿線市と連携し引き続き強く要望してまいります。

最後に

復興関連とともに人口減少・少子高齢化・第一次産業の振興策に多くの時間をさいた。トップリーダーである知事には、これから先の岩手はどんな色になっているのか、復興の先をどう思っているのか、「県としての明確なビジョン」「こういう岩手を目指そうぜ」といった思いを示してほしい。岩手県、そして当地域の復興発展のためにも将来を見据えた構想、見通し、未来像をこれからも問うていきたい。



総括質疑3月



小泉進次郎
激励に来市8月



安倍総理大臣タピックへ 2月



一般質問傍聴約40名 7月



議長に対し県立高田病院
再建要望 2月



女性の集い 4月



BRT 視察 9月



国際リニアコライダー誘致行動
(関係市町選出議員と) 6月



金成橋横断歩道設置 8月



石破幹事長に
橋本代議士と被災地要望 4月



矢作三ノ戸国交省松下政務官現地視察 8月



小泉圃場整備対応 5月



津付ダム 継続対県要望 8月



矢作町三ノ戸



紫波町災害視察 稲荷頭首工



古川沼行方不明者の
捜索への対応 7月

発行者 岩手県議会議員 佐々木茂光

発行所 佐々木茂光事務所 発行責任者 佐々木茂光

■皆さんの声をお聞かせください

○県政に関するご意見、ご相談をお寄せ下さい。

○今回発行の「県政報告」や私の活動への御意見もお待ちしております。

佐々木茂光事務所

住 所 〒029-2203 陸前高田市竹駒町字館 56-1

電 話 0192-53-1771 FAX 0192-53-1770

メー ル shigemitu@sasa-shige.net

オフィシャルウェブサイト <http://sasa-shige.net/>

